

(注) マルチメディアDAISY版は、ダウンロードしたzipファイル展開をしたパスに全角文字があると、EasyReaderExpressの制約により正常に作動しませんのでご注意ください。ダウンロードがうまくいかない方にはCDでお送りしますので、連絡先までお問い合わせください。

★ 前川あさ美「災害と発達障がい」

● PDF版



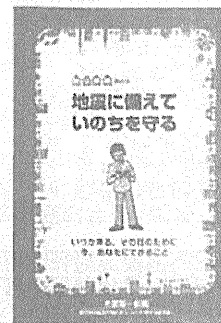
災害と発達障害(2014.1.22版:2013.2.11版からの変更は、このHPとiPad版アプリ「守るカード」ダウンロードサイト(2015.7より)の追加とページ番号の追加です)

- マルチメディアDAISY版
 - マルチメディアDAISY版(ルビなし)(35MB)
 - マルチメディアDAISY版(総ルビ付き)(35MB)
 - [マルチメディアDAISY版の使い方](#)

(注) マルチメディアDAISY版は、ダウンロードしたzipファイル展開したパスに全角文字があると、EasyReaderExpressの制約により正常に作動しませんのでご注意ください。ダウンロードがうまくいかない方にはCDでお送りしますので、連絡先までお問い合わせください。

★ 発達障害のある人への防災実践Book「地震に備えていのちを守る」

- [PDF版\(35MB\)](#)



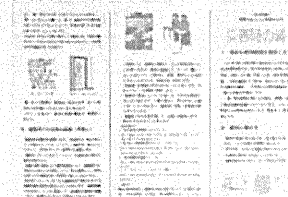
- 本書のオリジナル画像のJPEGファイルは、非営利の使用には提供いたしますので、連絡先までお尋ねください。
- この冊子は、所沢市の発達障害児・者のお母様たちに主に作成していただきました。対象者として、所沢市に住み東京都内に通勤・通学する発達障害の青年を想定しました。これらの人たちが事前学習するための教材が見当たらなかったからです。また、本人ではなく、支援する人のための災害時要援護者支援マニュアルでは、発達障害に関する記載が少なかったからです。障害特性・性別・年齢・個人・家庭・地域などの条件によりニーズも対策も異なりますので、記載内容のすべてが合う人はいないと思います。個人で、家庭で、学校や職場などの活動場所で、地域で、それぞれの状況に合わせた準備をするきっかけとして、修正してお使いいただきたく思います。
- 所沢版としましたのは、医療や給水などの制度や連絡先が、居住自治体によって違うと考えたからです。実際には、32ページ中8か所(p.12, 13, 14, 17, 18, 20, 28, 30)程度でした。色つき版では、各地での状況を確認する補助として、所沢特有の内容にピンクの目印をつけました。ほかに、発達障害に特有の記載に青、障害全般に共通する記載に黄色をつけました。
- 色付きPDF版(35MB)
- 意見シート[Word] この冊子に関するご意見・ご感想、記載されていないニーズや対策についてのご提案をご記入いただき、kitamura-yayoi@rehab.go.jpまでお送りください。今後の参考にさせていただきます。

★ 発達障害のある人への防災実践Book「地震に備えていのちを守る」全国版一般編[[pdf](#)]

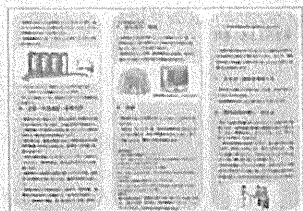
- 所沢版発達障害編から所沢に固有の情報と発達障害の文字を削除しました。初めて一人暮らしする人、一人で留守番する人、日本に住む外国人などにご活用いただけたらと考えています。
- その後の修正事項[[pdf](#)]

★ リーフレット

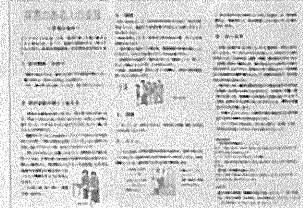
- 災害の備え ～障害のある人と周囲の人へ: 停電、地震～ [[pdf](#)]



- 障害のある人への支援 ～避難所で～ [[pdf](#)]



- 障害のある人への支援 ～在宅避難の場合～ [pdf]



★ iPad版「まもるリュック」

【企画・制作】前川あさ美(東京女子大学)、川口吾妻・坪沼真理・小笠原たけし(女子美術大学)、北村弥生(国立障害者リハビリテーションセンター)
【協力】一般社団法人 福祉芸術支援協会

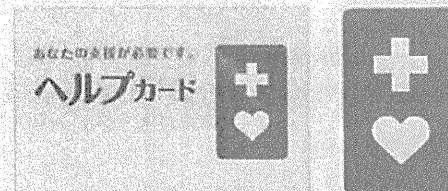
Apple App Storeにて公開しています。詳しくは福祉芸術支援協会ウェブサイトをご覧ください。



- iPad版「まもるリュック」パンフレット(A4用紙1枚) [pdf]
- iPad版「まもるリュック」解説書 [pdf]

★ ヘルプカード、ヘルプマーク [pdf]

- 東京都は、災害時要配慮者を示すため、ヘルプマーク(※)を身につけたり、配慮内容を書いたヘルプカードを作成所持することを推奨しています。マークの作成と活用は「ヘルプマーク作成・活用ガイドライン」に従う必要があります。「発達障害のある人への防災実践BOOK 地震に備えていのちを守る」p.32-33では、許可を得て掲載しています [pdf]。違う名称で類似のカードを作っている自治体も多くあります [pdf]、各自で自分用のカードを作っておくことも有効です。
- このマークを使わないでも、カード、テプラやビニールテープに頼みたいことを書いて掲示することもできます。大きなマークが目立ちすぎて不愉快だと思ったら、小さなキーホルダーに「定期入れをみてください」「お財布をみてください」と書いて、カードのある場所を示すこともできます。
- 下は、ヘルプカードとヘルプマークの東京都の標準様式の写真です。



- ※ ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、又は、妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からはわからない方が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで援助を得やすくなるよう東京都が作成したマークです。

(2) 防災勉強会

- 第1回 平成24年1月27日 講師 鍵屋一(板橋区役所 防災部長、障害福祉部長) [pdf]
- 第2回 平成24年4月23日 講師 水谷真、菅沼良平(社会福祉法人 AJU 自立の家 わだちコンピュータハウス)
- 第3回 平成24年10月1日 講師 北村弥生(国リハ研究所障害福祉研究部) (「ひとりぼっちをつくらない!」新所沢地域福祉活動連絡協議会主催 第三回防災勉強会)
- 第4回 平成25年1月16日 講師 北村弥生(国リハ研究所障害福祉研究部) (「災害時の要援護者支援」所沢ボランティア連絡協議会 共催)
- 第6回 平成25年6月21日 講師 八幡隆司(特定非営利活動法人 ゆめ風基金) [pdf]
- 第7回 平成25年8月 8日 講師 宮澤典子(国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科)
- 第8回 平成26年3月23日 所沢市並木公民館
- 第9回 平成26年7月3日 講師 宇田川真之(人と防災未来センター研究部) [pdf]

(3) グループワーク

- 「防災に関するグループワーク、母親グループワーク、障害児(者)グループワーク」
ご要望に応じて開催します。連絡先までお知らせください。グループワークの効果を評価する調査と撮影にご協力ください。
 - 障害学生のための防災ワークショップ 平成25年3月27日 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
 - 防災ワークショップ「他力本願」平成25年 夏休み 冬休み 春休み 三鷹

(4) 報告書

平成24年度報告書の一部は、html形式で、日本障害者リハビリテーション協会の障害保健福祉研究情報システムから参照できます。

- 平成24年度 総括・分担報告書
 - 報告書表紙 [pdf] [html]
 - 目次 [pdf] [html]
 - I 総括研究報告「障害者の防災対策とまちづくりに関する研究」 [pdf] [html]
 - 1. 東日本大震災における発達障害(児)者のニーズと有効な支援のあり方に関する研究 [pdf] [html]
 - 2. 知的・発達障害者に対する災時の情報支援に関する研究 [pdf]

- [html]
- 3-1. 障害(児)者の個人避難計画と避難所における配慮ガイドラインの作成 ~ 所沢市吾妻地区町内会の場合 ~ [pdf][html]
- 3-2. 障害(児)者の個人避難計画と避難所における配慮ガイドラインの作成 ~ 精神障害者による津波避難準備活動と地域 ~ [pdf][html]: 関連論文「精神障害者による津波避難訓練の効果と地域住民との関係」[pdf]
- 3-3. 社会福祉法人による甚大災害への準備活動と課題 [pdf][html]
- 3-4. 呼吸器利用・電動車いす利用で単身生活を行う難病盲ろう者の自助による災害対策 [pdf][html]
- 3-5. 災害時の避難候補場所の選定における電子地図とGISの活用 [pdf][html]
- 資料1 Compilation of "Disaster Prevention Handbook for People with Autism" and its Use in the Great East Japan Earthquake [pdf][html]
- 資料2 「自閉症のひとたちのための防災ハンドブック」の編纂と東日本大震災における活用 [pdf][html]
- 資料3 障害者の権利条約第5回締約国会議ラウンドテーブル1: アクセシビリティと技術 [pdf][html]
- 資料4 Requirements for Life-saving Information to Trigger Right Actions to Save Lives at Severe Disasters [pdf][html]
- 資料5 「災害時要援護者支援に関する勉強会」記録

平成25年度報告書の一部は、html形式で、日本障害者リハビリテーション協会の障害保健福祉研究情報システムから参照できます。

- 平成25年度 総括・分担報告書
 - 報告書表紙 [pdf][html]
 - 目次 [pdf][html]
 - 1. 東日本大震災における発達障害児・者のニーズと有効な支援のあり方に関する研究 [pdf][html]
 - 2. 知的・発達障害者に対する災害時の情報支援に関する研究 [pdf][html]
 - 3-1. 障害(児)者の個人避難計画と避難所における配慮ガイドラインの作成 ~ 地域防災訓練における聴覚障害者への筆記と掲示有効性課題 ~ [pdf][html]
 - 3-2. 聴覚障害者の災害準備状況と課題 [pdf][html]
 - 3-3. 地域防災訓練における視覚障害者へのガイドヘルプの有効性と課題 [pdf][html]
 - 3-4. 地域防災訓練への車いす利用者の参加と課題 [pdf][html]
 - 3-5. 避難所における使用候補であるベッドとマットによる接触圧測定を含む褥創予防プログラムの開発と評価 [pdf][html]
 - 3-6. 市民活動グループによる災害時要援護者安否確認活動(埼玉県所沢市) [pdf][html]
 - 3-7. マンション自治会における災害時要援護者支援(首都圏) [pdf][html]
 - 3-9. 呼吸器利用・電動車いすで単身生活を行う難病盲ろう者の共助による災害時個人計画 [pdf][html]
 - 資料3 日本障害学会での発表と質疑 [pdf][html]
 - 資料4 第10回世界ヘレンケラー会議での発表(英語) [pdf][html]
 - 資料4の日本語訳 [pdf][html]
 - 4. 障害(児)者を対象とした災害時前訓練教材の開発 [pdf][html]
 - 資料5 当事者と地域住民のための要援護者支援リーフレット
 - 資料6 Disaster Prevention Handbook for People with Autism [pdf]
 - 資料7 発達障害の人のための防災実践ハンドブック [html]
 - 5. 災害時要援護者支援に関する国際比較 [pdf][html]
 - 資料8 東日本大震災被災者支援のための視察と交流 [pdf][html]
 - 資料9 Lessons learned from March 11, 2011 for inclusive Community Based DRR [pdf][html]
 - 資料10 ナンシー・アナベル氏講演ノート [pdf][html]
 - 資料11 「災害時要援護者支援に関する勉強会」記録 [html]

- III 研究成果の刊行に関する一覧表 [pdf][html]

ページトップにもどる

2 電子図書の有効性に関する研究

(1) ワークショップ

ご要望に応じて開催します。連絡先までお知らせください。グループワークの効果の評価する調査と撮影にご協力ください。

- 「読み障害(視覚障害、ディスレクシア、発達障害、失語症など)の方にあった電子図書とパソコンシステムを探す読書会」
- 「読み障害(視覚障害、ディスレクシア、発達障害、失語症など)の方に便利な情報技術の提供」

(2) マニュアル

URL他、日々進歩する分野ですので、うまく動作しない場合は、連絡先までお問い合わせください。このマニュアルの更新に使わせていただきます。

- SaveAsDAISYによるMSワードファイルからマルチメディアDAISY・ファイルへの変換方法
- マルチメディアDAISY版教科書をダウンロードしてCDに保存する方法

ページトップにもどる

3 「特殊なニーズのある子どもの同胞に対する予防的ワークショップの開発に関する研究」

(1) ワークショップ

- 「特殊なニーズのある子どもの同胞(きょうだい)に対する予防的グループワーク(希望者が5人以上集まりましたら、随時開催します。連絡先までお知らせください。)

(2) 講演会

- 講演会 平成24年1月20日 東京都南多摩保健所
- 講演会 平成24年6月29日 東京都南多摩保健所
- 講演会 平成24年8月12日 韓国ソウル市

ページトップにもどる

4 「特殊なニーズのある大学生の修学支援研修」

(1) イベント

- 大学進学を目指す中学生から高校生、大学・短大・専門学校・大学院在学者者と保護者を対象にメールリストでの情報提供を実施中
- ミニ研修(肢体不自由) 平成21年5月31日
- ミニ研修(発達障害) 平成21年6月4～5日
- ミニ研修(発達障害) 平成21年8月1日
- ミニ研修(発達障害) 平成21年9月3日
- 第1回ワークショップ(発達障害、肢体不自由、視覚障害) 平成22年1月6～8日
- 第1回交流会(発達障害、肢体不自由、視覚障害) 平成22年3月27日
- 第2回ワークショップ(発達障害、肢体不自由、視覚障害) 平成22年8月6～8日
- 第2回交流会(発達障害、肢体不自由、視覚障害) 平成23年8月
- 第3回交流会(発達障害、肢体不自由、視覚障害) 平成24年3月25日
- 第4回交流会(発達障害、肢体不自由、視覚障害) 平成24年10月

(2) 参考資料

- 渡部Taylor美香 講演記録(日本障害者リハビリテーション協会、2007.11)
- ジム・マークス(日本障害者リハビリテーション協会、モンタナ大学障害学生支援部長)
- WHOセミナー概要(国リハ、2009.2.7)
- ～知的障害者のごきょうだいへ～ 障害のある人の将来 [PDF]

ページトップにもどる

研究成果

- 北村弥生「合衆国連邦政府における障害とリハビリテーションの担当機関: NIDDR, NARIC, ABLEDATA」(平成11年度 福祉用具動向調査報告書、財団法人テクノエイド協会)(PDFファイル)
- 北村弥生「合衆国の大学における福祉機器事業: カリフォルニア州立大学ノースリッジ校 OSUN、障害センター」(平成11年度 福祉用具動向調査報告書、財団法人テクノエイド協会)(PDFファイル)
- 北村弥生「カリフォルニア州における発達障害児施策: ランタマン・リージョナル・センター」(平成11年度 福祉用具動向調査報告書、財団法人テクノエイド協会)(PDFファイル)
- 北村弥生「カナダにおける福祉機器に関する制作と研究開発: 連邦政府、オンタリオリハビリテーション工学コンソーシアム、サニールック・ウーマンズカレッジ健康科学センター老化研究所、プロワビユー・マクミラン・センター(家族支援)」(平成11年度 福祉用具動向調査報告書、財団法人テクノエイド協会)(PDFファイル)
- 北村弥生「第2章 家族調査(含 ビデオテープ米国ヘレンケラー・ナショナル・センター) p.17-101(平成13年度 厚生労働科学研究費補助金(障害保健福祉総合研究事業)盲ろう者に対する障害者施策のあり方に関する研究 報告書、主任研究者 寺島彰)(PDFファイル: 報告書全体)」
- 北村弥生「米国における障害児(者)のきょうだいに対する支援」『OTジャーナル』34:83-86, 2000.
- 北村弥生「連載: 特殊なニーズのある子どものきょうだいに対する支援」『厚生労働』2008年7月号、10月号、11月号、12月号、2009年1月号
- 北村弥生、上田礼子。「特別なニーズのある人(子ども)のきょうだいに対する支援事業」『国リハニュース』平成10年 No.187
- 北村弥生、上田礼子。「特殊なニーズのある子どものきょうだいを対象としたワークショップの進展」『国リハニュース』平成19年 No.285
- 北村弥生、上田礼子。「高等教育における障害学生支援に関する研究」『国リハニュース』平成21年 No.312
- 北村弥生、上田礼子。「特殊なニーズのある子どものきょうだいを対象にしたグループワークの開発と評価」(第25回国立身体障害者リハビリテーションセンター

業績発表会予稿集(PDFファイル))

- 北村弥生、上田礼子。「特殊なニーズのある子どものきょうだい特殊なニーズのある子どものきょうだいを対象にしたワークショップにおける討論の実施」(第22回国立身体障害者リハビリテーションセンター業績発表会予稿集)(PDFファイル)
- 北村弥生、上田礼子。「障害児のきょうだい支援ワークショップの効果」(第21回国立身体障害者リハビリテーションセンター業績発表会予稿集)(PDFファイル)
- 北村弥生、上田礼子。「進行性神経筋障害児のきょうだいの悩みと対処方法」(第16回国立身体障害者リハビリテーションセンター業績発表会予稿集)
- 北村弥生、上田礼子。「慢性疾患患児のきょうだいによる患児の疾患の理解度」(第15回国立身体障害者リハビリテーションセンター業績発表会予稿集)
- 北村弥生「呼吸器装着における意思決定における筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の心理的葛藤とその解決」(国リハ紀要第22号)
- 北村弥生、上田礼子他。「慢性疾患患児の同胞の自己概念と意識」(国リハ紀要第23号)
- 北村弥生、上田礼子他。「筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者に対する人工呼吸器に関する情報提供について患者と医療従事者の理解の相違」(国リハ紀要第24号)
- 北村弥生、上田礼子他。「口唇口蓋裂児の自尊心とそれに関連する変数」(国リハ紀要第25号)
- 北村弥生、久保義和、河村宏。「重度自閉症者施設における火災訓練計画の作成と効果」(国リハ紀要第26号)
- 須田初枝、阿部淑子、佐々木敏宏、水野努、北村弥生、河村宏。「成人自閉症者入所施設における水害経験」(国リハ紀要第26号)
- 北村弥生、上田礼子他。「身体障害者施設サービスに対する不満と自己概念」(国リハ紀要第27号)
- 北村弥生、河村宏「北村弥生、河村宏。理療教育課程に在籍中の視覚障害者の学習による目の疲労感」『日本ロービジョン学会誌』2009
- 北村弥生「特殊なニーズのある子どものきょうだいに対する支援: 第一回 総論」『厚生労働』2008.7
- 北村弥生「特殊なニーズのある子どものきょうだいに対する支援: 第二回 米国におけるきょうだいを対象としたグループワーク」『厚生労働』2008.10.
- 北村弥生「特殊なニーズのある子どものきょうだいに対する支援: 第三回 グループワークでの自己紹介からディスカッションに至るまで」『厚生労働』2008.11.
- 北村弥生「特殊なニーズのある子どものきょうだいに対する支援: 第四回 グループワークでのディスカッション」『厚生労働』2008.12.
- 北村弥生「特殊なニーズのある子どものきょうだいに対する支援: 第五回 多様な試行」『厚生労働』2009.12.
- 北村弥生、上野久美子、篠原慶、小田島明。「プリントディスプレイのある者への電子図書利用の実効性と課題」(国リハ紀要第31号)
- 北村弥生、渡部Taylor美香、河村宏。「米国における障害学生への支援 ～発達障害を中心として～」(国リハ紀要第31号)
- 打浪文子、北村弥生。「大学で情報保障を利用した聴覚障害者の職場における状況と課題」(国リハ紀要第31号)
- 阿部淑子、白井和子、北村弥生。「自閉症のひとたちのための防災ハンドブック」の構築と東日本大震災における活用: 自閉症の人が安心して暮らせる街は、だれにでも安心な街」(国リハ紀要第32号)
- 北村弥生、上田礼子、柿沼章子。「血友病患者によるきょうだいに関する感情と経験及び遺伝に関する意識」(国リハ紀要第32号)
- 北村弥生、野村美佐子、河村宏。「プリント・ディスプレイのある人への電子図書の活用と災害情報の提供」LISN, No.149, 2011.
- 北村弥生、前田晃秀ら。「盲ろう者の宿泊型生活訓練における宿直者の業務内容と可能性」(国リハ紀要33号)
- 北村弥生、本多康生ら。「東日本大震災の被災地における災害時要援護者支援: 宮城県南三陸町を中心とした調査結果」(国リハ紀要34号)
- 北村弥生、河村宏ら。「精神障害者による津波避難訓練の効果と地域住民との関係」(国リハ紀要34号)
- 北村弥生、前田晃秀ら。「盲ろう者の生活訓練における通訳・介助業務の内訳と課題 ～利用者に対する通訳・介助員業務日誌通信欄の解析～」(国リハ

障害者の防災対策とまちづくりに関する研究

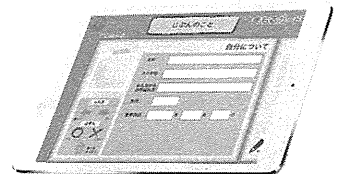
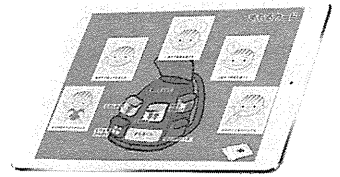
研究代表者：北村弥生 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

kitamura-yayoi@rehab.go.jp

<http://www.rehab.go.jp/ri/fukushi/ykitamura/kitamurayayoi.htm>

東日本大震災被災地における発達障害児の経験 (前川あさ美 東京女子大)

- ・災害発生直後は比較的混乱はなく「いい子」が多かったが、ライフラインの復旧と共に居場所、物資、情報、障害への知識、人材の不足が彼らと彼らの家族を長期にわたって苦しめた。
- ・そうした中でも、他者と繋がることのできた保護者たちには、「自分の受容」「子どもへの発見」「他者との絆意識」「新しい価値観と感謝」といったポストトラウマティックグロースが見いだされた。
- ・一方、直後に過活動が見られた支援者の中には、経過のなかで心身を著しく疲弊させた者があったが、震災をきっかけに繋がった他者との関わりを通して、自己研鑽や地域体制づくりをすすめていく者があった。
- ・後者の支援者の特徴には、自分の使命を明確にでき、他者と関わりと継続し、受容・理解してもらう他者の存在が見いだされた。
- ・調査の結果を踏まえて、子どもが主体的に関われる iPad版 防災アプリ「自分をまもるリュック」を開発・評価した。



(社)福祉芸術支援協会
<http://www.wasa.or.jp>

障害当事者のための防災マニュアルの開発と評価 (北村弥生 他)

DAISY版「自閉症の人のための防災・支援マニュアル(日英)」、(日本自閉症協会)、DAISY版&PDF版「災害と発達障がい」、PDF版「発達障害の人のための防災実践BOOK」、PDF版&テキスト版「災害準備リーフレット」3種類を開発し、評価した。



災害時における発達障害児・者への情報提供の在り方

(深津玲子 国リハ発達障害情報・支援センター)

全国85発達障害者支援センターへの調査により、東日本大震災の影響について下記を明らかにした。

- ・1年間は全国的な影響が継続した。
- ・2年目には心理的なケアへの関心が残った。

訪問学級における災害時対策

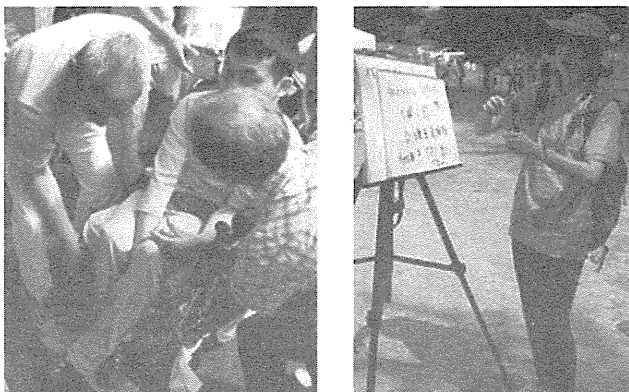
(猪狩恵美子 福岡女学院大学)

全国の訪問学級のある500校への質問紙法による調査と先進例への面接調査から訪問学級における災害対策の現状と課題を明らかにする。

地域における個別避難計画の作成と防災訓練への参加

(北村弥生)

地域防災訓練への参加により、地域の障害理解と障害者の地域活動を促進したことを実証した。

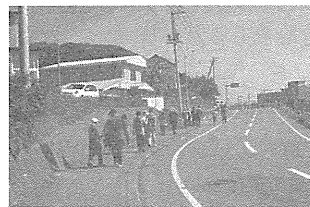


左：2年目には階段の昇降は町内会で介助。
右：聴覚障害者にはアナウンスを筆記した。

障害者自身が行う避難訓練とその国際啓発

(河村宏 NPO 支援技術開発機構、
福田暁子 ずれーたプロジェクト)

- ・北海道の(社福)浦河べてるの家の精神障害者たち、町役場、町内会による防災活動(津波避難等)を媒介し、国際機関での発表を支援した結果、それぞれの自主性が促進された。国連ZERO PREJECT採択。
- ・当事者の自主活動(ずれーたプロジェクト)の一部として避難訓練や備蓄品選定を記録し、国際的に発信した。



左：浦河べてるの家で津波に備えて4分で10m高台に移動する。
右：呼吸器装着者2名は独自に避難訓練を試行し、国際的に発信した。

障害者のための防災教材

厚生労働科学研究「障害者の防災対策とまちづくりに関する研究」(H.24～26)

研究代表者: 北村弥生 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

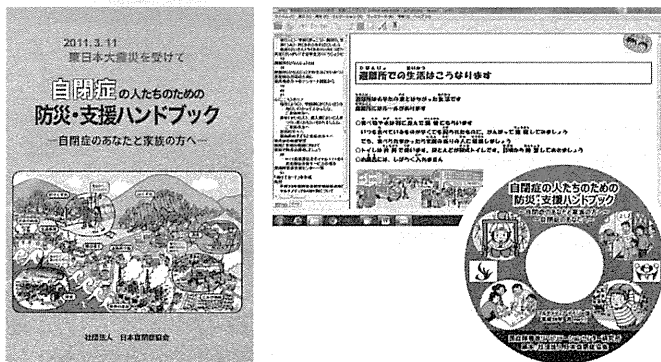
kitamura-yayoi@rehab.go.jp

CDの他に、下記URLのリンクからもダウンロードで入手できます。
<http://www.rehab.go.jp/ri/fukushi/ykitamura/kitamurayayoi.htm>

マルチメディアデジ版 & pdf版

「自閉症の人のための 防災・支援ハンドブック(本人・家族編)」

日本自閉症協会編

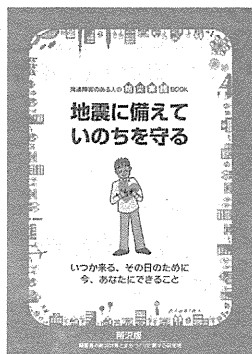


東日本大震災でも最大1日に約2万件がダウンロードされた防災マニュアル。本人に読んでほしい部分と親向けの部分を、違う声で読み分けた。英語版も作成。33ページ。

pdf版 & jpeg画像

「発達障害のある人の防災実践BOOK 地震に備えていのちを守る」とイラスト原画

「障害者の防災対策とまちづくりに関する研究班」発行
 五里江陽子 企画・編集・デザイン

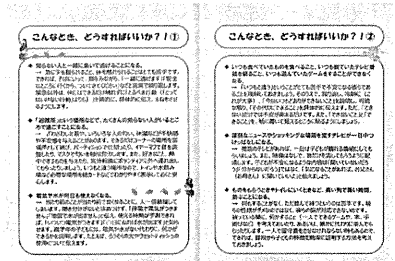


電車通学や通勤をする青年期発達障害者が自分で読むための防災教材。埼玉県所沢市に住む場合を例に、一般のマニュアルにその行動をする意味の解説を追加した。各自のマニュアルを作成するためのひな型として活用されることを期待している。32ページ。

マルチメディアデジ版 & pdf版

「災害と発達障がい」

前川あさ美著(東京女子大学)



岩手県宮古市や東京都内の発達障害児らの保護者ならびに支援員の協力を得て作成。防災は、まず「現実から学ぶこと」、「自分(子ども)と自分が持っている力を知ること」から始まるということから、東日本大震災での体験をまとめている。16ページ。

pdf版リーフレット

「障害のある人と周囲の人の災害時の備え」 「障害のある人の支援 ～避難所の場合～」 「障害のある人の支援 ～在宅の場合～」

北村弥生著(国立障害者リハビリテーションセンター)

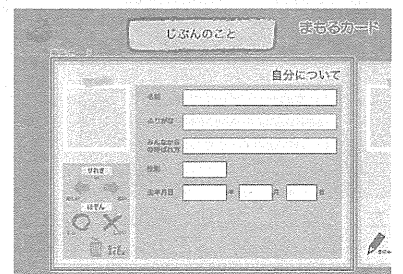
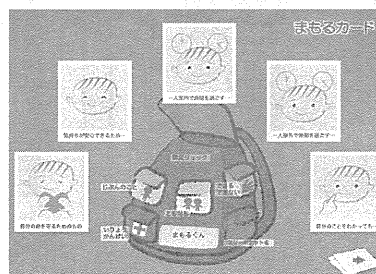


A4用紙1枚に要点をまとめた。地域で障害について、理解いただくのにご利用いただきたい。

iPad版 「自分をまもるリュック」

原案・企画: 前川あさ美(東京女子大学) デザイン・制作: 川口吾妻、小笠原たけし、坪沼真理(女子美術大学)

東日本大震災後考案された「自分をまもるカード」をiPadを使って作成する防災アプリ。防災に子どもたちが関心をもち、主体的に取り組むことを可能にし、「自分を知る」「自分を伝える」ための情報を整理できる。下記URLよりダウンロード準備中。
 一般社団法人 福祉芸術支援協会: www.wasa.or.jp



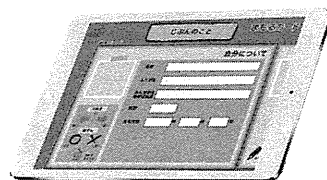
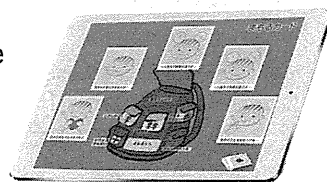
Yayoi KITAMURA (kitamura-yayoi@rehab.go.jp)

Preparedness → Evacuation → Shelter

<http://www.rehab.go.jp/ri/fukushi/ykitamura/kitamurayayoi.htm>

Experiences of Children with Autistic Spectrum Disorders after the Great East Japan Earthquake at Miyagi and Iwate (Asami MAEKAWA)

- Many children with ASD didn't show any confusion and behaved as "a good boy or girl" just after that disaster, but the shortage of "places to stay", "supplies", "information", "the understanding of disorders and expertises" were serious obstacles for them and their family in the process of the restoration of lifeline and tormented them for a long term.
- However, Post Traumatic Growth such as "the acceptance of self", "new awareness of their child", "bonding with others and community", "new sense of values and thanks" could be found in their parents who were able to connect with others.
- Among the supporters of them who were seen all right just after that disaster, some have shown mental and physical fatigue and burn-out in process but others haven't, who could clarify their sense of mission and find out the existence of others who accept and understand them so that they feel that they were not isolated.
- With these consequences of research, we have developed a manual and iPad application for disaster preparedness, which were evaluated in and outside of the affected areas.



<http://www.wasa.or.jp>

Development of Educational Materials for Disaster Prevention

(Yayoi KITAMURA et.al)

Two accessible manuals, two brochures, three leaflets and an iPad application for disaster preparedness were developed and evaluated.



Providing Information to children and persons with autistic disabilities

(Reiko FUKATSU)

Surveys to 85 Autistic Disability Support Centers revealed

- Worries about the disaster extended all over Japan for a year, after Great East Japan Earthquake.
- Concerns about psychological supports still remained in the second year.

Disaster Preparedness in Visit Classes

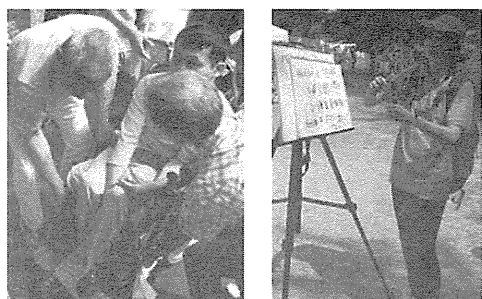
(Emiko IKARI)

Surveys to 500 visit classes showed their challenges on disaster preparedness.

Participation in Community Disaster Drills by Persons with Disabilities

(Yayoi KITAMURA)

In addition to disability awareness by community residents, participation in community activities by persons with disabilities have increased after they joined the community disaster drills.



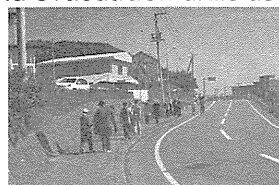
Left: Neighbors lifted the wheel chair up and down the stairs in the second year.

Right: Announcements were written down on a board for the deaf.

International Awareness to Evacuation Drills by Persons with Disabilities

(Hiroshi KAWAMURA and Akiko FUKUDA)

- Evacuation Drills at Urakawa, which was awarded United Nation Zero Project, have been continued for 10 years by a team of group with mental illness, local government, neighborhood agencies and researchers.
- Zurayata Project runs disaster preparedness group works and evacuation drills as a part of peer activities.



Experiences at disaster drills were presented at meetings by United Nations.

Left: Psychiatric residents at at group homes have been participated in evacuation drills to climb to altitude 10m in 4 minutes.

Right: Two ventilator users at Zurayata Project.

Educational Materials on Disaster Preparedness for Persons with Disabilities

"A research on Disaster Preparedness and Community Inclusion for Persons with Disabilities"

Yayoi Kitamura (National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities)

kitamura-yayoi@rehab.go.jp

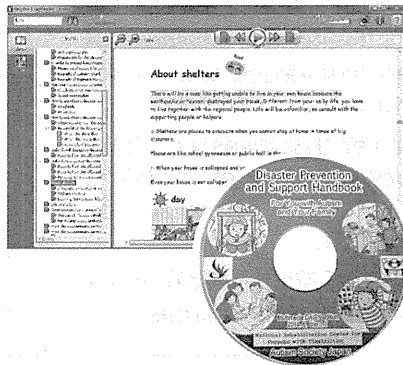
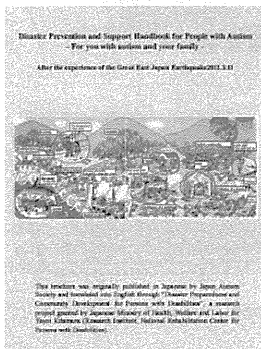
<http://www.rehab.go.jp/ri/fukushi/ykitamura/kitamurayayoi.htm>



Multimedia DAISY and PDF (Japanese and English)

"Disaster Prevention and Support Handbook for People with Autism"

Japan Autism Society

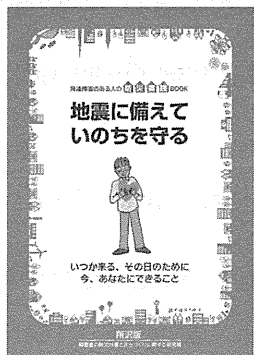


Over 20,000 access per day to this manual was reported in the 2011 Great East Japan Earthquake. 43 pages.

PDF and JPEG images of figures (Japanese)

"Disaster preparedness for persons with autistic disabilities: Save lives in case of gigantic earthquakes"

Yayoi Kitamura and Yoko Gorie

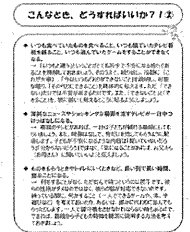
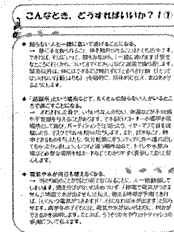


This is a self study brochure for students and adults with autistic spectrum disorders who commute to schools and offices independently. Reader's own version based on the brochure is strongly recommended to edit by themselves. 32 pages.

Multimedia DAISY and PDF (Japanese)

"Disaster and Autistic Spectrum Disorders"

Asami Maekawa (Tokyo Woman's Christian University)



This is a manual on disaster preparedness for children with special needs, their family and their community, which are lessons from their experience of the Great East Japan Earthquake. 16 pages.

PDF leaflet to know the outline quickly (Japanese)

"Disaster preparedness for persons with special needs and their family"

"Support for persons with special needs in evacuation shelters"

"Support for persons with special needs staying at home"

Yayoi Kitamura



This manual is designed for community residents to learn how to support persons with disabilities.

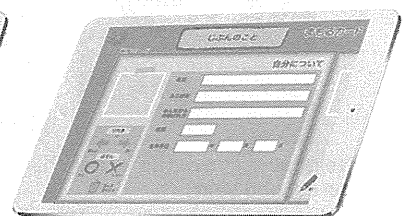
iPad Application "Go Bag to defend myself"

Asami Maekawa (Tokyo Woman's Christian University),

Azuma Kawaguchi, Takeshi Ogasawara, Mari Tsubonuma (Joshibi University of Arts and Design)

Based on "Cards to defend myself", this application helps children to prevent themselves from disasters and to tell their needs to others.

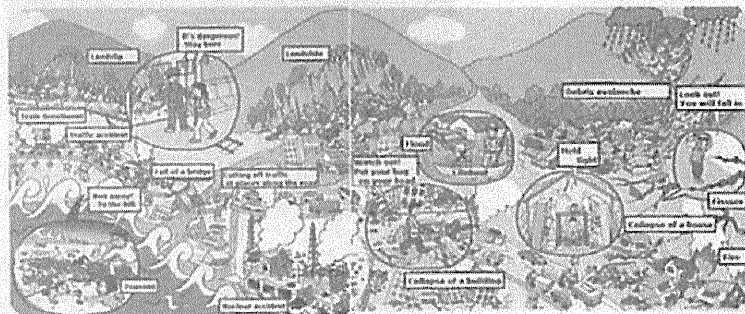
<http://www.wasa.or.jp>



Disaster Prevention and Support Handbook for People with Autism

- For you with autism -

After the experience of the Great East Japan Earthquake 2011.3.11



Autism Society Japan

- Contents . . . page 1
- Various Disasters . . . page 2
 - Earthquake, tsunami, nuclear accident, flood, fire, and tornado
- About disasters . . . page 3
- How to protect your life: Preparation . . . page 4
- How to act when a disaster occurs . . . page 5
- Daily life changes by disasters . . . page 6
- About shelters . . . page 7
- Life at shelters . . . page 8
- Mental care . . . page 9
- Let's discuss about disaster prevention at home . . . page 10
- Making of "HELP ME CARD" . . . page 11

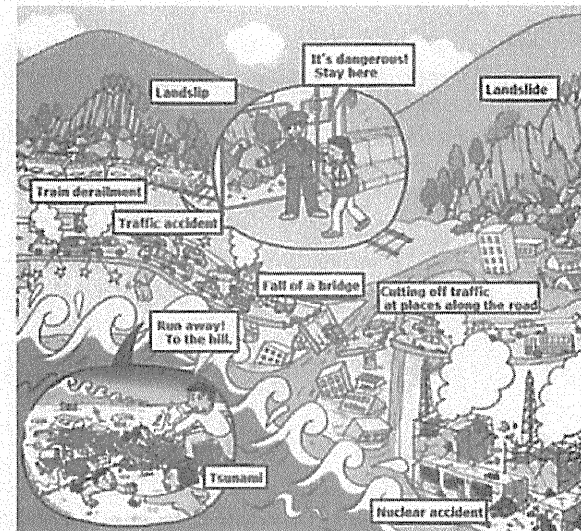
On multimedia DAISY version . . . page 12

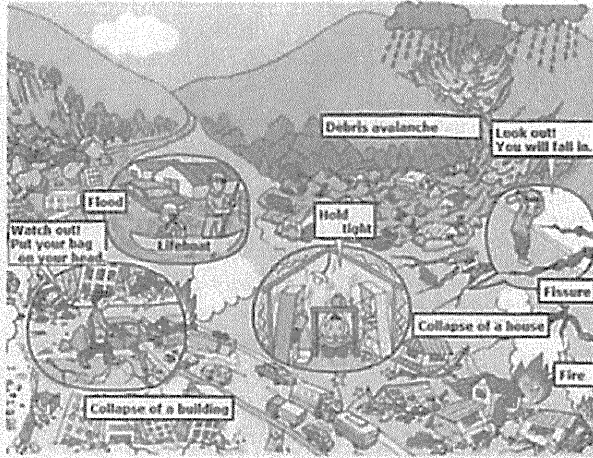
End Title . . . page 13

General Editor, Kosuke Yamazaki (Chairman, Autism Society Japan)



Various Disasters: earthquake, tsunami, flood, and tornado.





Read



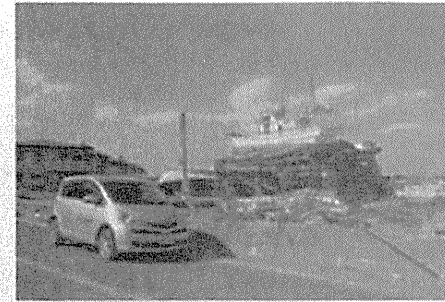
About disasters

The Great East Japan Earthquake occurred on March 11, 2011 and the earthquake and tsunami caused a tremendous damage. Also, related to the atomic accident, the damage got worse. Let's study various types of disasters and prepare for them.

Earthquakes could occur at any moment!

Everyday preparation is the most important thing.

Fix the furniture to the wall. Do you have your own disaster evacuation bag?



Tsunami: tsunami comes with the earthquake!
Run away to the hill immediately.



Nuclear Accident

It is necessary to decontaminate to avoid outside radiation exposure and be careful about food to reduce internal radiation exposure.